

東北大学文学部「現代日本学演習 I」

2022-04-27

研究対象を絞る

田中重人

(東北大学文学部現代日本学専修)

「現代日本学」とは

現代 × 日本学 である

英語名：Innovative Japanese Studies



伴野文亮・茂木謙之介編 (2022) 『日本学の教科書』 文学通信.

目指すところ

学際化＋国際化

実際にはむずかしいが、どうすれば？

対象を絞り込む戦略

「複数の領域から魅力的に見える研究対象」
について

「自信をもって提示できる核心部分」
を追究する

高橋章則 (2022) 「日本学の「場」を作る：東北大学を事例に」 『日本学の教科書』 文学通信, 31-52.

東北大学文学部 (2022) 『人文社会科学の未来へ』 東北大学出版会.



沼崎一郎・永井彰・佐倉由泰 (2022) 「人文社会科学の学び方」
『人文社会科学の未来へ』 東北大学出版会 (p. 34).

ある「問い」に対し、はっきりした「答え」を出し、その答えの「理由」をしっかりと示す

単なる思い付きではなく、確かな「根拠」に基づいていなければなりません。

小松丈晃 (2022) 「社会学 「越境」 のすすめ」
『人文社会科学の未来へ』 東北大学出版会 (pp. 148-149).

スマートフォン等の端末の部品やSNSでのやりとり、コンビニエンスストア、電車の中、両親の介護、身近な人の死、結婚、恋愛も含めた感情……など、すべて社会学的課題と直結しています。

嶋崎啓 (2022) 「ドイツ文学 ドイツ文学の研究の仕方」
『人文社会科学の未来へ』 東北大学出版会 (p. 242).

ドイツ文学で卒業論文を書こうと思った場合、どうすればいいでしょうか。

- ① 作品を読む。
- ② 自分が何に引っかかったかを意識化する
- ③ 同じ問題が過去に扱われているか調べる。
- ④ 過去の研究に反論できるか考える。

嶋崎啓 (2022) 「ドイツ文学 ドイツ文学の研究の仕方」
『人文社会科学の未来へ』 東北大学出版会 (p. 243).

特別な印象が残らない場合、作品とあなたとの間には何も関係がないということです。それ以上その作品にこだわるのはやめましょう。

嶋崎啓 (2022) 「ドイツ文学　ドイツ文学の研究の仕方」
『人文社会科学の未来へ』 東北大学出版会 (p. 244).

感動をそのまま研究にしようとするとうまくいかないことも多いです。感動は感動として、それとは別に、研究の対象として「気になる」ことを出発点とするのが現実的だということはよくあります。とは言え、感動がなければやる気も起きませんので、この見極めは難しいものです。

足立薫 (2022) 「美学・西洋美術史 イメージの力、再発見！」
『人文社会科学の未来へ』 東北大学出版会 (pp. 346-347).

人間には、多かれ少なかれ、イメージとその描写を見ながら、何がどのように表されているかを分析的に理解することができる観察力があります。……じっくり見るだけで、意外にも多くのことがわかります。

長岡龍作・杉本欣久 (2022) 「東洋・日本美術史 人はなぜ「美術」を作ってきたのか」 『人文社会科学の未来へ』 東北大学出版会 (pp. 273-277).

問題意識を持たずに漫然と眺めるだけの「観察」では、具体的な「情報」を引き出すのは困難です。けれども「比較」という方法を用いれば違いが炙り出され、「分析」と呼ぶに相応しい手応えのある「観察」が可能となります。

自身の認識がみるみるうちに変化していく経験を、ぜひみなさんにも味わっていただければ

つまり

- よく見る
- なんらかの基準／仮説を持つ
- 他のものと比較する

「核心」をつかんだと思えるまで繰り返す

人文社会科学の研究対象

ふつうの人がふつうに知覚できるが、
意識化・言語化・体系化・一般化
しにくい事柄

- 特別な測定装置を必要としない
- **専門家の優位**はどこにあるか？

茂木謙之介, 田中重人, Christopher Craig (2022) 「現代日本学 複数の視点で捉える〈日本〉」 『人文社会科学の未来へ』 東北大学出版会.

【目次】

はじめに：現代日本学とは

1. 映画『ゴジラ』にみる科学者像
2. メディア表象から考える『ゴジラ』
3. 歴史と『ゴジラ』

おわりに

以下の動画・静止画の引用は東宝発売のDVDビデオ (TDV26142D) による。一部はフリーソフトによって画面キャプチャしたため、上部に文字列が挿入されている場合がある。解像度を下げているので、細部が見えにくいかもしれない。

映画『ゴジラ』(1954 東宝)

- 監督：本多猪四郎
- 特殊技術：円谷英二
- 製作：田中友幸
- 音楽：伊福部昭

『ゴジラ』 (1954) あらすじ

- 貨物船等、南方海上で遭難 (原因不明)
- 大戸島に怪獣が出現 (深夜)
- 大戸島調査団派遣、怪獣を目撃
- 大戸島近海でのゴジラ攻撃作戦
- ゴジラ、東京湾に出現。品川付近に上陸
- ゴジラ、再上陸
- 芹沢博士、酸素破壊剤でゴジラを抹殺

個人的な心構えとして.....

- 好きな部分があつかいにくい
- 違和感を探す

ふたりの科学者

芹沢大助 (化学者)
[配役：平田昭彦]



山根恭平 (古生物学者)
[配役：志村喬]



芹沢の決断プロセス

研究成果の悪用をおそれ、秘匿



ゴジラを倒すために自ら使用

気になること

簡単すぎないか？

茂木, 田中, Craig (2022) 「現代日本学 複数の視点で捉える〈日本〉」
『人文社会科学の未来へ』 東北大学出版会 (p. 115).

彼にとっての判断基準は、テレビ越しのものに他ならない。……酸素破壊剤の使用を迫る尾形を殴り倒し、流血の事態となっても、破壊兵器としての転用の可能性からそれを封印する意思を変えなかったにもかかわらず、テレビから「平和への祈り」として東京の惨状が映し出されたとき……にはあっさりと改心してしまうのだから

使えるかもしれないアイデア

- 実証的マスメディア効果研究以前
- 映画制作者たちの来歴
- 音楽がミスマッチ

映画音楽の効果

- 本当に鳴っている音
- 登場人物の心情

→ 台詞 vs. 内心 vs. ナレーション

佐倉啓泰・横溝博・仁平政人 (2022) 「日本文学 文学作品を柔軟に丁寧に読み、考える」 『人文社会科学の未来へ』 東北大学出版会 (p. 339).

『雪国』の語り手は、島村の意識・身体に深く寄り添い、その瞬間的な感覚や心の動きを、しばしば直接的に提示します。

語り手は島村と一体化しているわけではなく、その島村に対する距離は微妙な変化を含んでいます

当該シーンの悲劇性

- 死の決意
- でも誰も気づかない

盛り上がる音楽のほうがいいのでは？

cf. バーバー 「弦楽のためのアダージョ」

「平和への祈り」の意味

芹沢へのレクイエム (の先取り)?

→ 映画のラスト (芹沢死後) とおなじ曲

「平和への祈り」 曲想

- 教会音楽っぽい (フリギア旋法?)
- 旋律は滝廉太郎「荒城の月」から?
 - ※ 「荒城の月」伴奏作曲は山田耕筰

発展させる方向

- 多数のアイデア中、使えるのはわずか
→とにかく数を出す
→面白そうなものを追いかける
- 当初の研究対象にこだわる必要はない。
「核心」に近づいているかが重要。

アイデアを出すには

- 知識量が問題

- インプットが重要 (これまで/これから)

- 知識の引き出ししかた

- 単純化／パターン化の方法

- 定跡／分類を知っておくと有利

研究の進めかた

- 常に頭の片隅に
- 常に資料を携帯
- できる限り覚える
- メモ、ノートなどの活用
- 他人と話す